

市立病院 令和3年度決算報告

令和3年度大和市病院事業決算について、9月議会にて決算認定を受けましたので報告します。

1. 令和3年度決算の概要

- ・ 対前年度比較で診療収益が入院・外来ともに増加し、さらに重点医療機関として、大人の中等症患者の受入に加えて、小児の疑似症（12月から陽性者も1名卒受入）や周産期の妊婦の受け入れ等をしたことから、病床確保料補助金の額が増額し、結果として黒字が増えました。

2. 収支状況

(単位：千円)

	令和3年度(A)	令和2年度(B)	差(A-B)
① 病院事業収益	13,129,364	12,184,975	944,389
うち入院収益	5,746,948	5,460,651	286,297
うち外来収益	3,278,244	3,147,452	130,792
うち繰入金	1,392,148	1,385,110	7,038
うち国県補助金	2,002,162	1,498,043	504,119
② 病院事業費用	12,183,914	12,057,128	126,786
うち給与費	6,361,929	6,329,157	32,772
うち材料費	2,491,351	2,389,635	101,716
うち経費	1,881,442	1,838,029	43,413
③ 収支額(収益-費用)	945,450	127,847	817,603

3. 業務量

		令和3年度(A)	令和2年度(B)	差(A-B)
入院	① 占床率	59.9%	61.1%	△1.2ポイント
	② 1日平均患者数	241.3人	246.2人	△4.9人
	③ 平均在院日数	9.8日	10.5日	△0.7日
	④ 診療単価	65,254円	60,775円	4,479円
外来	⑤ 1日平均患者数	790.5人	749.2人	41.3人
	⑥ 診療単価	17,136円	17,288円	△152円

① 病院事業収益の主な増減理由

入院収益：対前年度比+286,298千円

- ・ コロナ病床の確保（休床含む）や、コロナ病床の増床及び発熱者等接触者外来に対応するため、9/1から9/30まで7E病棟を閉鎖した影響等を受け、患者数は減少しました。
- ・ しかし、手術適応患者の増加や重症患者に対する高額な薬剤の使用などにより、1日1人平均診療収益が増加し、増収となりました。

外来収益：対前年度比+130,793千円

- ・ 令和2年度は不要不急の外来受診を控えていた患者さんがいましたが、令和3年度は受診控え等が概ね解消したため、外来延べ患者数が増加しました。
- ・ 診療科別対前年度比較：小児科 +2,857人、整形外科 +2,216人、耳鼻咽喉科 +1,026人

補助金：対前年度比+504,120千円

- ・ 前年度に引き続き、重点医療機関としてコロナ患者（疑似症含む）を受け入れてきたことから、空床確保に要する費用について、県費補助金にて収入しました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症病床確保事業補助金 1,858,173千円（+666,328千円）

② 病院事業費用の主な増減理由

給与費：対前年度比+32,771千円

- ・ 看護師数の増（R2末314人→R3末325人）に伴い看護師給（給料）が増加しました。

材料費のうち薬品費：対前年度比+72,156千円

- ・ 医業収入の増加に伴う薬品費の増加が主な要因です。

※薬品費対医業収益比率：R2 16.9%、R3 17.0%

経費のうち光熱水費：対前年度比+20,092千円

- ・ 前年度と比べ使用量は減少しましたが、原油価格高騰の影響等により料金単価の基礎となる燃料調整額が下半期より急激に上昇したため、電気・ガス料金ともに増額となりました。

※電気：+10,000千円、ガス：+10,000千円

経費のうち委託料：対前年度比+68,060千円

- ・ R2.10から医事課にて会計年度任用職員が担っていた業務の一部を委託化（+41,280千円）。（その分、会計年度任用職員の人件費が減額（▲45,408千円））
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策として、感染病棟の特別清掃や外来トリアージ、面会制限に伴う面会受付業務を委託化（+13,566千円）。
- ・ 新型コロナワクチン接種対応として、会場事務に伴う業務を委託化（+9,525千円）。
- ・ オンライン資格認証システム（マイナンバーの保険証対応）導入業務を委託（+12,045千円）。

業務量の主な増減理由

- ・ 入院占床率については、コロナ患者対応として一部病棟にて使用を制限したことや、平均在院日数が対前年度比で0.7日減少したことなどの理由により、対前年度比で微減（△1.2ポイント）となりました。
- ・ 緊急事態宣言によりR2年4～5月は外来患者が激減したのに対し、R3年度はそこまでの影響がなかったため、外来1日平均患者数は対前年度比で+41.3人の増となりました。

4. その他財務状況

（単価：千円）

	令和3年度(A)	令和2年度(B)	差(A-B)
① 現金預金残高	830,463	301,272	529,191
② 企業債残高	3,351,489	4,288,783	△937,294
③ 他会計借入金残高	1,000,000	1,000,000	0

その他財務状況の主な増減理由

- ・ 現金預金残高は病床確保料補助金等により収益額が増加したことから対前年度比約5.3億円の増となりました。
- ・ 企業債は返済に対して新規の借入額が下回っていることから、対前年度比約9.4億円の減となりました。